

だいこん

農薬取締法上「だいこん」と「はつかだいこん（ラディッシュなど含む）」は別作物である。また、「だいこん」は「非結球あぶらな科葉菜類」には含まれないので、葉を食用にする場合でも「だいこん」か「根菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。なお、「間引き菜、つまみ菜」への農薬使用については、後述のコラムを参照すること。

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

月		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
作型・病虫害名													
春	ま			トンネル被覆									
初	秋			は種			収穫						
軟	腐												
萎	黄												
ア	ブ												
コ	ナ												
ハ	イ												
ネ	キ												
ヨ	ト												
キ	ス												
カ	ブ												

軟腐病

留意事項

- 1 高温多雨の年に発生が多い。
- 2 キスジノミハムシやヨトウムシの食害痕からも発生しやすい。
- 3 バイオキーパー水和剤は軟腐病の拮抗微生物を成分とする。

防除方法

- 1 イネ科、まめ科作物との輪作を行う。
- 2 高うねにして、排水を良くする。
- 3 初秋まきでは、過度の早まきは避ける。
- 4 発病株は、直ちに、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 5 窒素過多にならないよう、適正施肥に努める。
- 6 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ **バイオキーパー水和剤** <（生）>
 【野菜類（除かぼちゃ、ズッキーニ） 500～2000倍 発病前～発病初期／－】
- 7 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ **カスミンボルドー**、**カッパーシン水和剤** <M1> <24> 【1000倍 14日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [バリダシン液剤5](#) <U 1 8> 【500倍 7日／4回】
- ・ [スターナ水和剤](#) <3 1> 【1000倍 14日／5回】

萎黄病

留意事項

- 1 土壌温度26～29℃の時に発生が多い。

防除方法

- 1 初秋まきでは、早まきを避ける。
- 2 耐病性品種（YR）を用いる。
- 3 発病株を早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 土壌消毒を行う。（**XⅢ**土壌消毒 2土壌病害虫等を対象とした薬剤による土壌消毒 参照）

モザイク病

防除方法

- 1 早まきを避ける。
- 2 耐病性品種を用いる。
- 3 シルバーポリフィルムで、マルチングを行う。
- 4 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項 参照）

アブラムシ類

留意事項

- 1 モモアカアブラムシ、ダイコンアブラムシ、ニセダイコンアブラムシなどが発生する。
- 2 パダンSG水溶剤は薬害の恐れがあるため、夏期高温時にあぶらな科野菜の苗や軟弱苗には使用しない

防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダントツ粒剤](#) <4 A> 【3～6kg／10a まき溝処理土壌混和 は種時／1回】
 - ・ [プリロッソ粒剤オメガ](#) <2 8> 【6kg／10a まき溝土壌混和 は種時／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4 A> 【2000～3000倍 7日／2回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) **劇** <1 4> 【1500倍 7日／3回】
 - ・ [トランスフォームフロアブル](#) <4 C> 【2000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

コナガ・アオムシ

留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 2 幼虫による被害が著しいのは春と秋である。
- 3 あぶらな科野菜を加害するほか、ナズナ、イヌガラシ、スカシタゴボウなどの雑草にも寄生する。
- 4 コテツフロアブルは薬害の恐れがあるため、だいこんでは8葉期以降に使用する。

防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [プリロックス粒剤オメガ](#) < 2 8 > 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【1000～2000倍 7日/3回】
 - ・ [グレースィア乳剤](#) < 3 0 > 【2000～3000倍 7日/2回】
 - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 < 1 3 > 【2000倍 14日/2回】
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > (IX野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照)

ハイマダラノメイガ（ダイコンシンクイ）

留意事項

- 1 5月下旬より発生が始まり、8～10月の高温乾燥時に発生が多い。
- 2 キャベツ、はくさいも加害する。
- 3 食入前の防除に努める。

防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
 - ・ [プリロックス粒剤オメガ](#) < 2 8 > 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アフーム乳剤](#) < 6 > 【2000倍 7日/3回】
 - ・ [グレースィア乳剤](#) < 3 0 > 【2000～3000倍 7日/2回】
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日/2回】
 - ・ [ベネビアOD](#) < 2 8 > 【2000～4000倍 前日/3回】

ネキリムシ類

防除方法

- 1 下記の薬剤を施用する。
 - ・ [ダイアジノン粒剤5](#) < 1 B >

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【4～6kg/10a 全面土壌混和または作条土壌混和 は種時/1回】

【6kg/10a 土壌表面散布 生育期（21日）/1回】

- ・ [プリロッソ粒剤オメガ](#) <28> 【6kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】
- ・ [アクセルベイト](#) <22B> 【3～6kg/10a 株元散布 7日/2回】

ヨトウムシ

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

- ・ [ディアナSC](#) <5> 【2500～5000倍 前日/2回】
- ・ [プレオフロアブル](#) <UN> 【1000倍 14日/2回】
- ・ [ベネビアOD](#) <28> 【4000倍 前日/3回】
- ・ [アクセルフロアブル](#) <22B> 【1000～2000倍 7日/2回】
- ・ [BT剤](#) <11A> （Ⅸ野菜類の病虫害防除 3野菜類 参照）

だいこんのつまみ菜、間引き菜への農薬使用について

収穫・出荷時の状態	農薬の使用
つまみ菜より若いダイコン	<u>農薬は使用しない。</u> 農薬を使用した場合は収穫・出荷しない。
つまみ菜 ：本葉おおむね2枚以上	ラベルを確認し、注意事項に「間引き菜、つまみ菜には使用しないこと」の旨の記載がある農薬は使用しない。 また、間引き菜、つまみ菜の収穫をする日を「収穫日」として、使用時期を遵守する。
間引き菜 ：本葉おおむね4枚以上	

キスジノミハムシ

留意事項

- 1 年3～4回発生で成虫越冬する。
- 2 成虫は葉を、幼虫は根を食害する。
- 3 高温乾燥時に多発する。
- 4 スタークル粒剤、アルバリン粒剤の成分ジノテフランの総使用回数は、5回以内（但し、は種時のまき溝土壌混和は1回以内、は種時の全面土壌混和は1回以内、粒剤の散布は1回以内、水溶剤の散布、液剤の散布及び無人航空機散布は合計2回以内）。
- 5 フォース粒剤の成分テフルトリンの総使用回数は、2回以内（但し、は種時までの処理は1回以内、は種後は1回以内）

防除方法

- 1 早まきを避ける。
- 2 幼虫に対して、下記の薬剤を施用する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >
【4～6kg／10a まき溝土壌混和 は種時／1回】または
【9～12kg／10a 全面土壌混和 は種時／1回】
【6kg／10a 生育期（30日）／1回】
 - ・ [フォース粒剤](#) 劇 < 3 A >
【6～9kg／10a 全面土壌混和 は種時／1回】または
【4～9kg／10a まき溝土壌混和 は種時／1回】
【6kg／10a 株元散布（14日）／1回】
- 3 成虫に対して、下記の薬剤を散布する。
- ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日／3回】
 - ・ [グレースシア乳剤](#) < 3 0 > 【2000～3000倍 7日／2回】
 - ・ [アクセルフロアブル](#) < 2 2 B > 【1000倍 7日／2回】

カブラハバチ

防除方法

- 1 は種時に、下記の薬剤を施用する。
- ・ [プリロックス粒剤オメガ](#) < 2 8 >
【カブラハバチ類 6kg／10a まき溝土壌混和 は種時／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 < 4 A > 【2000～4000倍 14日／1回】
 - ・ [グレースシア乳剤](#) < 3 0 > 【カブラハバチ類 2000～3000倍 7日／2回】
 - ・ [ディアナSC](#) < 5 > 【2500～5000倍 前日／2回】
 - ・ [ベネビアOD](#) < 2 8 > 【カブラハバチ類 2000～4000倍 前日／3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。